

Title	表紙・目次ほか
Author(s)	
Citation	人文學報 = The Zinbun Gakuh : Journal of Humanities (2009), 98
Issue Date	2009-12-30
URL	http://hdl.handle.net/2433/134775
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

人文學報

XCVIII

京都大學
人文科學研究所

2009

人 文 学 報

第 98 号

京都大学人文科学研究所

2009年12月

目 次

植民地期インド・オリッサにおける社会変容 ……………	田 辺 明 生	1
—— 歴史人類学的検討 ——		
身体技法の習得と身体の抵抗 ……………	倉 島 哲	81
—— マンチェスターの太極拳を事例として ——		
敗戦前後の佐々木惣一 ……………	松 尾 尊 兌	117
—— 近衛文麿との関係を中心に ——		
近代山王祭りの原点 ……………	ジョン・グリーン	143
—— 官幣大社日吉神社史の一齣 ——		
「野生」の観念とその両義性 ……………	片 岡 大 右	177
—— モンテニューからシャトーブリアンまで ——		
多数性としてのゲスト ……………	山 本 達 也	205
—— 北インド・ダラムサラを事例に ——		
精霊憑依のコミュニティ ……………	福 浦 一 男	229
—— 北タイ、チェンマイの基柱の守護精霊を崇拝する 霊媒集団とその宗教実践 ——		
女神にひかれる男たち ……………	河 西 瑛里子	269
—— 現代の欧米の新しい宗教的实践におけるジェンダーについて ——		
1920年代京都における都市計画展覧会の歴史的意義 ……………	秋 元 せ き	297
—— 都市計画にみる歴史意識 ——		
書 評		
近代京都研究 ……………	中 嶋 節 子	327
フェティシズム研究第1巻 フェティシズム論の系譜と展望 ……	小 川 さやか	335
現代モンゴル遊牧民の民族誌 ……………	佐 川 徹	341
—— ポスト社会主義を生きる ——		

『人文学報』投稿規定

1. 『人文学報』は、年に原則二回刊行される学術誌で、人文科学に関する関連領域の論文、研究動向、資料紹介、書評・書評論文、講演会記録などを掲載する。
2. 『人文学報』には、所内研究者、共同研究班班員、所内の客員（国内客員および外国人研究員）、名誉教授、招聘外国人学者、外国人共同研究者、研修員、受け入れ学術振興会特別研究員が投稿できる。これ以外にまた、編集委員会が適切と判断して投稿を依頼する場合がある。
3. 本誌の論文等は原則査読の対象となる。原稿は、査読を経た後、編集委員会の責任において採否を決定する。
4. 投稿料は支払われない。但し、論文、書評論文執筆者には本誌1部が無料で提供される。また抜き刷り50部が無料で提供される。
5. 著者校正は2回とする。
6. 投稿締め切りは、毎年9月末日と12月末日とする。原稿は、「『人文学報』編集委員会」宛てに送付することとする。
7. 原稿作成にあたっては、「『人文学報』執筆要領」に従うこととする。
8. 他雑誌への二重投稿についてはこれを禁じる。
9. 『人文学報』に掲載された論文等について、その著者は複製権（電子化する権利）と公衆送信権（公開する権利）にかんする許諾を人文科学研究所に与えたものとする。人文科学研究所は公開の便をはかるために、京都大学が設置したサーバから掲載論文等を画像あるいはPDFなどの形式で送信することができる。

『人文学報』執筆要領

1. 使用言語は原則日本語とする。以下は日本語論文を想定した要領である。
2. 論文には、日本語（800字程度）と欧文（200語程度）の要旨を添付する。日本語のキーワードを5点記す。
3. 投稿原稿は枚数をとくに制限しないが、論文については本文12,000～48,000字を目安とする。書評・書評論文については4,000～8,000字を目安とする。
4. 原稿の表紙に、論文、研究動向、資料紹介、書評、書評論文などの区別を明記する。ただし、この点に関する最終判断は編集委員会が行う。
5. 原稿は、ソフト名を明記し、デジタルファイルとそのハードコピーを提出する。
6. 原稿は、A4サイズとする。
7. 図表、写真などには、それぞれ通し番号と表題を付ける。それぞれの挿入場所を、本文の右側欄外に番号で指定する（手書きでよい）。
8. 引用文献・参考文献などの形式は各専門分野の慣行に従うこととし、とくに規定しない。
9. 注は後注とし、注には通し番号をつけ、本文とは頁を改めて作成する。本文中の注は、字肩に上付きで、1)、2)などと記す。また、右側欄外に注番号を記しておく（手書きでよい）。
10. 書評、書評論文、新刊紹介などの場合には、別紙に、著者名（フルネーム）、書名（副題、シリーズ名、巻数なども含めて）、刊行地、出版社、ページ数、定価などを記す。
11. 他の言語で既に発表したものと内容が重なる場合は、その旨明記する。

編集委員

田 中 雅 一
岩 城 卓 二
伊 藤 順 二
高 階 絵里加

人文学報 第98号

(京都大学人文科学研究所紀要 第163冊)

2009年12月25日 印刷
2009年12月30日 発行 **非 売 品**

発行所 京都大学人文科学研究所
京都市左京区吉田本町

印刷所 明文舎印刷株式会社
印刷者 中 村 仁
京都市南区吉祥院池ノ内町10

THE ZINBUN GAKUHŌ

JOURNAL OF HUMANITIES

Vol. 98

DECEMBER 2009

CONTENTS

- Transformation of Local Society under Colonialism in Orissa, India :
A Perspective of Historical Anthropology A. Tanabe
- Acquisition of Body Techniques and Corporal Resistance :
A Case Study of a Tai Chi Class in Manchester A. Kurashima
- Sasaki Sōichi in his Postwar Years :
In the Context of his Relations with Konoe Fumimaro T. Matsuo
- The origins of the Sanno Festival :
On the Modern History of the Great State Shrine Hie. J. Breen
- Idea of Savage and Its Ambiguities: From Montaigne to ChateaubriandD. Kataoka
- Guests as Multiplicity/Hybridity :
The Case Study in Dharamsala, North IndiaT. Yamamoto
- The Community of Spirit Possession : Religious Practices of a Grouping of
Spirit Mediums that Worships the Tutelary Spirit of City Pillar in
Chiang Mai, Northern ThailandK. Fukuura
- Men who are attracted by Goddess-Gender issues within the new religious practices
in the WestE. Kawanishi
- Historical meaning of Kyoto City Planning Exhibition held in 1920 s :
Historical Consciousness in City PlanningS. Akimoto
- Book Reviews**
- MARUYAMA Hiroshi, IYORI Tsutomu, TAKAGI Hiroshi (eds.).
Modern Kyoto StudiesS. Nakajima
- TANAKA Masakazu (ed.). *Fetishism Studies 1 Genealogy and
prospect of Fetishism Theories*S. Ogawa
- KAZATO Mari. *An Ethnography of Pastoral Nomads in Modern Mongol :
Living in the age of Postsocialism*T. Sagawa

Published

by

THE INSTITUTE FOR RESEARCH IN HUMANITIES
KYOTO UNIVERSITY

ISSN 0449-0274